

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

### 【タイトル】

逃走中 ～残虐な暴走族を止めろ～

### 【作者名】

ブルー・ハイパー

### 【あらすじ】

今回はスーパーペーパーマリオの世界で逃走中!!

12人+ の逃走者達は5体のハンターから逃げることができ  
るのか!?

勝利のカギは『次元ワザ』と『ピュアハート』にあり!?

更にこの世界だから実現できる新要素もてんこ盛り!!

12人+ の逃走劇をご覧ください!!

スーパーペーパーマリオのネタバレがありますのでご注意ください。  
さい。

## 01 集められる12人の逃走者

「おっ、いいことを思いついたぞ。」

「どうした？ 右手。」

何やらとある場所で会話をしているマスターハンドとクレイジーハンドだが…、

「今回はスーパーペーパーマリオの世界を舞台とした逃走中を企画したい。」

「だから？ 何をしろと。」

「…いや、特に何も。」

「おい…。」

場所変わってここはスマブラ合宿所。マスターハンド達作った合宿所でそこに

スマブラメンバーが住んでいるのだ。

「今日は暇ですね。マリオさん、カービィさん。」

ヨッシー達がいるのは合宿所の近くにある野原。

マリオやカービィ、ルイーダ、クッパもここで昼寝していたようだ。

「そうだな。…だったら今日は新しいゲームでも買うか？ それで皆で遊ぶ」

「ぞー！」

「うおー!! 退屈で限界だったのだ!! なら早く買いに行くぞ!!」

張り切っているクッパとカービィ。

するとこのタイミングで…、

「これより逃走中に出たい方を募集する。時間は今から15分。出た方は合宿

所へ急ぐように。」

いきなりクレイジーハンドからの放送が流れた。

「逃走中ですか…。どうします？ 皆さん。」

「ボクは出るよー!!」

「勿論、ワガハイも出るのだ!!」

2人はそれだけ言うと合宿所めがけて大急ぎで走って行った…。

「じゃ、ボクも参加します!! 今回の逃走中も活躍して見せますよー!!」

「やれやれ…。じゃ僕も参加するぞー!!」

「待ってよー!! 兄さん!!」

こうしてマリオ達は大急ぎで合宿所へ戻り、見事参加できたのであった。

「今回は12人集まったか…。じゃ、今から逃走中の舞台となる場所へ行くぞ!!」

そしてワープされた場所はと言つと…、

「ここって…、ハザマタウンじゃないか!」

「そうだ。今回はスーパーパーマリオを舞台とした逃走中を行う。そして体を

よく見てみる。」

「ん!? … あーっ!! ボクの体がペラペラに!!」

「ペーパー世界だからな。体もペラペラでないと世界が成り立たない。」

「でもこれはこれで斬新な感じだよね。兄さん。」

「確かに…。」

「何でも右手の話によると今回は今までの逃走中とは一味も二味も三味も違うから」

しい。最も、俺は意味が分かんないけどな。」

マリオ達が会話している内に…、

「あと20分あたりで逃走中を開始する。こちらもいろいろ準備があるのでもう少し」

待ってもらいたい。」

ここでマスターハンドの放送が。

果たして今回の逃走中と何が違うのか!?

## 02 逃走者紹介

### エントリー 01 マリオ

- ・任天堂の顔と言ってもいい存在で多くの人達から信頼されている。
- ・優しい性格で困っている人を見ては放ってはおけないタイプ。
- ・最近ではクッパとも若干だが友好関係を築くようになったらしい。
- ・ミッションには積極的に参加する。
- ・賞金はプロローグで言っていた新ゲームを買い、皆とプレイするようだ。

### エントリー 02 ルイージ

『永遠の二番手』や『日陰者』等いろいろ言われているが、その汚名を返上

する為、この逃走中に参加したらしい。

- ・兄であるマリオ同様、優しい性格で困った人を放ってはおけない。
- ・ただ頑張り過ぎて空回りすることも…。
- ・巫空の使者の時もあってか、デデデとは何故かウマが合うらしい。
- ・また機械に得意でハッキングやパソコンの超早打ちも得意だといふ噂が!?

### エントリー 03 クッパ

- ・クッパ軍団の首領で大番長的な存在だが、性格は意外と丸い。
- ・ピーチにアピールする為か、ミッションにはかなり積極的だが、それが裏

目に出なければいいところなのだが…。

- ・体格のせいか、スピードはかなり遅めなので逃げることでより隠れることを考えた

ほうがいいだろう。

- ・賞金は今見ているアニメのブルーレイをまとめ買いするのに使う

とか。

エントリー 04 ピーチ

- ・キノコ王国のお姫様でマリオ並に信頼されている。
- ・またクッパには異様に好かれており、最初は無視することも多かったが、最近

クッパが悪いことを起こさなくなったのか少なくとも嫌いではなくなった。

- ・料理の腕は凄いが、たまに失敗料理を作ってしまうことがある。
- ・賞金の使い道は秘密らしい。

エントリー 05 ヨッシー

- ・ヨースター島に住む恐竜で『ヨッシー』というのは一族の総称と

のこと。

- ・足が逃走者の2番目に速く、ミッションにも積極的。
- ・しかし食べ物に目が無い為、釣られてしまうこともある。

- ・賞金自体にはあまり興味が無いみたいだが、食べ物には目が無い為、逃走成功

を狙っているようだ。(賞金でたくさん食べ物が食べられる為)

- ・言うまでもなく賞金は食べ物に使う。

エントリー 06 ワリオ

- ・ニンニクと金には目が無く、ミッションも金関係以外のミッションは行かない。

- ・足の速さも遅めで逃げると言うよりは隠れてやり過ごすのが無難だと思われる。

- ・勿論狙うのは逃走成功だのこと。
- ・運がいいのかハンターに見つかっても何故か逃げきれらしい。

その原因は今

の時点では不明。

- ・賞金は新しいバイク、新型テレビ、ニンニク等いろんなことに使

うようだ。

エントリー 07 ドンキーコング

・DKのネクタイを常に付けており、同じネクタイを13個持っているらしい。

・言葉が喋れないので大抵はヨッシーがマリオが通訳する。

・異様なバナナ好きでたまに『この世界をバナナ色にしてやる』等意味不明な

ことを言う。

・巨体なのでワリオやクッパ同様、隠れてやり過ごす方が無難だと思われる。

・ヨッシー同様、賞金は言うまでもなくバナナに使うのは間違いない。

エントリー 08 カービィ

・ヨッシー同様、非常に食いしん坊だが今回は逃走中自体を楽しむ為にエントリー

したとのこと。(ちなみに本人は賞金をよく理解していないらしい。)

・頼まれたことは進んでやるタイプで一度決めると意思を曲げない強い精神力を

持っている。

・しかし、ミッションには危険を感じるのか自分からはほとんど参加しないようだ。

・長い間動かないでいると寝てしまうことがある為、かなり注意が必要だと思われる。

エントリー 09 デデデ

・自称ププランドの王でカービィを常に一方的にライバル視している。

・巨体だが意外と身軽で反射神経には結構優れている。しかし、ス

ピードが問題である

ことに変わりはないので油断は禁物と思われる。

- ・ミッションもマリオ程ではないが、積極的。
- ・賞金の使い道は本人もまだ考え中。
- ・ちなみに逃走中の裏を探るのが得意だそうな…。

エントリー 10 メタナイト

- ・ププブランドの騎士で剣の腕前も超一流！
- ・ただ、カービィにいじられているのが気に食わないらしい。
- ・ミッションはその時の状況に合わせて行くかどうかを決めるとのこと。

・賞金の使い道は不明。(本人曰く教えられない。)ただ、戦艦ハルバードを所持している

るのでその改造や修理に使うという可能性もある。

エントリー 11 スネーク

・スマブラでゲスト参戦したメンバーの一人で偵察活動を数多く経験している為か今回は

自信満々らしい。

- ・ミッションにも積極的に逃走成功候補者の一人。
- ・ダンボールに隠れるのが得意のだが、ハンターには無意味なのでダンボールに隠れて

捕まるといふ皮肉な話にならないようにしたいところ…。

- ・賞金は新しいランチャーを買うのに使ったとか。

エントリー 12 ソニック

・スネーク同様、ゲスト参戦したメンバーで世界最速の名に恥じないといんでもないスピー

ドでフィールドを駆け巡る。

・逃げているうちに行き止まりになりがちだが、今回は行き止まりは結構少ないのでそんな



ーことにはまずならないだろう。

・自由を誰より好んでおり、大抵は気ままにやり過すが、ミッションの誘いが来るとすぐ

ミッションに向かう等、協力性はあるようだ。

## 03 逃走エリア紹介

ラインラインロード…・ステージ1に登場するステージ。

ここにア・ゲールが住んでおり、そこで次元ワザを習得できる。

基本的に複雑な造りではない為、ハンターから逃げきるには無理

があるエリアでもある。

コダーイいせき…・ラインラインロードのどこかにあるワープゲートを潜ると来ることが

できる。

ラインラインロードとは違い、結構複雑な造りだが、自分の場所を見

失わないように。

ここにピュアハートの守り神ズンババがいる。

本来、ズンババは倒されているがゲームを成り立たせるため、復活している者もいる。

サンデルの屋敷…・ステージ2に登場するステージ。

コダーイいせき同様、複雑な造りではあるがバンケンがうつついて

おり、触れると屋敷の外につまみ出される。

サンデルが住んでおり、強力なまじないをかけてもらえる。

カクカク平原…・ステージ3に登場するステージ。

背景や草等全てがドットでできている変わったステージ。

・唯一、アイテムが道端に落ちている事があるエリア  
で戦力を増やすなら

ここでアイテムを探すのも1つの方法。

カメレゴン城…・カクカク平原の奥にあるカメレゴンの城。

・他のエリアと比べて比較的狭い。

・カメレゴンが住んでおり、ある条件を満たすと『とつ  
てもスゴイ物』を

プレゼントしてくれる。

大宇宙…・ステージ4の舞台となる宇宙。

・ここでは息ができない為、通常入ることはできない。

ストーンストーン村…・ステージ5に登場するステージ。

・ロック人が住んでいる村で建物などが全て石で  
きている。

・逃走中においてかなり役に立つ情報を教えてくれ  
る者がいるらしい!?

ハナーンの洞窟…・ストーンストーン村のある場所にあるワープゲート  
を潜ると来ることが

できる。

・ハナーン達が住んでおり、結構複雑な造りになっ  
ている。

・奥にはキング・ハナーンがおり、ある条件を満た  
すと一回だけハンター

を一体停止させることができる。

モノノフ王国…・ステージ6の舞台となる国。

・モノノフ王が国を纏めており、100人の部下が

日々修行をしている。

・ある条件を満たすと無条件で逃走成功と見なされる。

アンダーランド…・ステージ7に登場するステージ。

・アンダーランドは死んだ人の魂が来る場所で犯した罪が軽ければ

こことは正反対のスカイランドへ行くことができる。いわゆるこ

こは地獄。

・アンダーランドを治める女王『ジャーデス』があり、ある条件を

満たすと制限時間のあるアイテムの効力時間を2倍にしてくれる。

スカイランド…・死者の楽園とも呼ばれており、アンダーランドとは真逆の世界。

いわゆるここは天国。

・アンダーランドのどこかにあるワープゲートを潜ると来ることができ

きる。スカイランドの長『グランエル』があり、ある条件を満たすとジャ

ーデスのある条件を満たす必要がなくなる。

・アンダーランドにも言えることだが、本当の所、何度も来る場所ではない。

ハザマタウン…・マリオ達が最初に来たエリアでマスターハンド達

がここでミッションを出したりとゲームの管理をしている。

ここにハンターが来ることは無いが、合計25分ハザマタウンにいると

強制失格となり、残り25分になるとハザマタウンにもハンターが1体

出現する。(但し、残り25分になると25分以上ハザマタウンにいると

強制失格となるルールは無効になる。)

ある場所には遊技場などがある。遊技場に入っている間は強制失格の

時間にはカウントされないが中に入れる制限時間はある。

遊技場…ハザマタウンのどこかにあり、ある条件を満たすとミニゲームで遊べるようになる。

ミニゲームで高得点を出せば出すほど『ハザマネー』をゲットでき、ハザマ

ネーはアイテムと交換することができる。

ちなみに利用できるのは1人4回までである。

エリアのどこかにある『ゴールドカード』を使うとミニゲームが一つ増える。

## 04 アイテム紹介

↳ハンター関連アイテム↳

無敵サングラス…・かけると2分間ハンターから仲間と認識され、確保されなくなる。

・残り時間4分になると使えなくなる。

冷凍銃…・ハンターに向けて冷気をかけるとそのハンターは停止する。

・大きいタンクがあるので結構重い。その為扱いにくい。

冷凍拳銃…・冷凍銃を拳銃化されたアイテム。軽い為、冷凍銃よりかなり扱いやすい。

・ハンターに撃つとそのハンターは停止する。

網…・ハンターに向けて投げるとそのハンターは一時的に身動きを取れなくなる。

・しばらくすると再び追ってくるので動いていないうちにハンターの視界から消えたいところ。

↳ドリンク系アイテム↳

ドリンク…・飲むと体力が回復する。

透明ドリンク…・飲むと逃走者からもハンターからも見えなくなる不思議なドリンク。

・ちなみに逃走者とハンター以外の者には普通に見える。

・しかし5分経つと元の状態に戻る上、残り時間10分になると使えなくなる。

↳特殊系アイテム↳

モドルドカン…・逃走者全員に最初に渡されるアイテム。

・使うところからでもハザマタワーに戻ることができない。

・ただし電波の届かない場所では使えない上、一方通行なのでハザマタワーに

戻ってまた使った場所へ戻ることはできない。

ゴールドカード…・エリアのどこかにある金色のカード。

・遊技場で店員に見せると新しいミニゲームで遊ぶことができる。

・ちなみにどんなにカードを持っていても増えるミニゲームは1つだけ。

復活のお札…・ハザマタウンにいるマスターハンドに話しかけるとお札1枚につき、確保者を1

人復活させられるアイテム。

・銅色のお札が一般的だが銀のお札なら2人、金のお札なら3人復活できる。

↳通貨系アイテム↳

ハザマネー…・遊技場のミニゲームで得点を出すとその得点に応じて貰える通貨。

・ミニゲームで遊ぶのにもハザマネーが必要でハザマネーは3コインで1ハザマネーもらえる。

- ・ たまったハザマネーはアイテムと交換できる。

コイン…・ 逃走者全員には最初に30コインずつ渡される。

- ・ ミッションやハザマネー交換などいろんな場面で使われる通貨。

- ・ コインが一般的な通貨だが、ハザマネーは変わった通貨である。



## 第1話 オープニングゲーム

前回、クレイジーハンドによってハザマタウンへ飛ばされた12人。

現在準備中なのだが、あと20分くらいには始められるようだ…。

「逃走中はまだかな？」

一刻も早く始まってほしいと思っているカービィ。

カービィだけでなくほとんどの逃走者がワクワクしている様子。

「あれ？ 二二どこなの!?!」

「何でいきなりこんなどこに…!」

「ん？ 誰なんですか？ あの3人。」

「知らないよ。兄さんの知り合いじゃない？」

「僕だって知らないぞ。」

突然、3人がワープされてきたかのように現れた。

そこにマスターハンドが現れ…、

「準備が思ったより早くできたから今から始めるぞ。 …って誰なん

だ？ この3人は。」

「それがボク達にも分からないんですよ。」

「…だったらこの3人にも逃走中に参加してもらおうというのはどうだ  
?」

突然、2人の会話を割り込むかのようにメタナイトが案を出した。

「うん…。それもいいだろう。ちょうどメンバーが足りなかったからな。」

「だったら今すぐ僕が3人に説明するよ。」

ルイージはすぐさま、3人に事情を説明する。

「つまり…、お前達のやっているゲームに参加すればいいんだな？」

「そういふこと。」

「何か楽しそう!! 私やる!!」

「どうせ待っても暇だから俺もやるぞ!!」

「よし、決まりだな。では、逃走中を始める前に自己紹介をお願いしたい。」

「私はsayyaです。頑張ります!!」

「俺は瑞田高光だ。よろしくな。」

「俺は総銀。ぜひともよろしく。」

「それじゃ、逃走者の諸君には地図や携帯電話、マップにアイテムの説明書。そして

ハザマドカンと30コインを渡しておこう。コインはいろんな場面ですつから大切に

とっておくように。」

「まずはオープニングゲームだ!!」

すると目の前には5体のハンターボックスと16本の鎖が出現…。これから逃走者は1人ずつ鎖を引いていき、見事に外れなければ2分間の猶予が与えられる…。

…しかし、外れを引けばハンターが放出。引いたものはほぼ確実に確保されるだろう。

「1人目は…、スネーク。」

「いきなりか…。だがこれはかなり有利だ。」

尚、順番は2人がくじ引きで事前に決めている。

そしてかなり有利な状況に立っているスネークは果たして!?

ガチャ!! シーン…。

「ここで外れることは滅多に無いだろう。」

セーフだ…。スネークはそのままハザマタウンを後にし、ハザマタウンへ向かった…。

「次は…、カービィだ。」

「ボ、ボクか…。よし、外れは引かないよ!!」

カービィもまた有利な状況に立っている…。

果たして、セーフなのか!? ハンター放出なのか!?

ガチャ!! シーン…。

「よし!!」

カービィは思わずガッツポーズを取るが…、

ウィーン…。

ガッツポーズと同時にハンターボックスも2m前進…。

「これはどついついことなのか!？」

「しかし、ドクロが入っていた！ 残念だが、ハンターボックス前進だ。」

「しまったー!!!」

「大丈夫ですよ。こんなウツカリ誰にだってあることです。気にしたら負けですよ。」

心にガーンときたカービィだがヨツシーはそんなこと全然気にしてない様だ…。

「次は…、総銀だ。」

「俺か…。」

ガチャ!! シーン…。

総銀は呼ばれた途端、鎖を引いた。

セーフで良かったのだが、引くタイミングがあまりにも早かったせいで全員ヒヤヒヤして  
いた様だ…。

「この野郎…。ヒヤヒヤさせんじゃねーよ!!」

ワリオが総銀にブーイングを言ったが…、その時は既にワリオの視界には居なかった…。

「次はワリオだ。」

「おっ、俺様か…。じゃ、これを引いてやる。」

ワリオが力強く鎖を引いた…。

果たしてセーフなのか!？ ハンター放出なのか!？

ガチャ!! シーン…。

セーフだ。しかし、ドクロがあっただのでハンターボックス2m前進<sup>進</sup>。

これで逃走者とハンターとの距離は10mに…。

「これで捕まる確率が更に広がってしまったのだ!!」

「次はマリオだ。」

「よし、これ以上ドクロは引かないぞ!!」

自信満々のマリオ…。

果たして宣言通り、ドクロと外れを引かずにクリアできるか!?

ガチャ!! シーン…。

セーフだ…。しかもドクロは付いていない。

「よし!! やったぞー!!」

「くそ、一本取られたか…。だが逃走中ではワガハイが活躍してやるのだ。」

「次は…、ヨッシーだ。」

「よ、よし…。マリオさんが引いたんだ。ボクだってドクロ無しを引いてやる! えい!!」

マリオに続き、ヨッシーもドクロを引かずにクリアできるのか!?  
果たして…!?

ガチャ!! プシュー!!

ハンター放出 ゲーム開始。

「えー!! ドクロどころか外れ引いてしまいましたー!!」

ハンターの狙いは勿論ヨッシー。5体のハンターがヨッシーめがけて追いかける…。

「…」  
「…!!」

だがヨッシーも負けじと猛スピードで振り切る…。  
あの走りはある意味ソニックより凄いと思われる。

「ヨッシー!! ヨッシー!!! ヨッシー!!!」

その速さはあまりにも驚異的なスピードだ。

数秒辺りで何とかハンターからの視界から消えたヨッシーだが…。

「ハア…。ハア…。ハア…。いきなりこんなに体力を使うなんて…。  
ちょっと涼しい所で

休みましょう。」

スピードはもの凄いが体力は大幅に消耗したヨッシー…。  
序盤からピンチであることは、間違いない…。

「確保情報が出ないわね…。ひょっとしてヨッシー逃げ切ったのかし  
ら…」

一方、ここはラインラインロード。エリアはハザマタワーにある7  
つの扉から入ることが

できる。

そしてここにはビーチがいる。

「サンデルの屋敷の前に来たか…。サンデルとかいるのか？」

マリオもサンデルの館の前に来ている。相変わらず屋敷の前では静かすぎる風が吹いている…。

いる…。

「ここに自首電話もあるのか…。ここにあることを覚えておいて損は無いはずだ。」

尚、自首電話を使って申告すればゲームからリタイアできる…。

ただし、ハンターに捕まれば賞金は…0!!

それが…、

r u n f o r m o n e y 逃走中

## 第2話 ミッション 1 次元ワザを習得せよ

「ウホッ!! ウホーッ!!!」(すげえ!! どんどん賞金が増えてるぜ!!)

「あの額は魅力的かもしれないが…、欲に流されては元も子も無いからな…。」

「すごいのだ!! 新しいクッパ城とか建設できそうなのだ!!」

どんどん上がっていく賞金に皆は大興奮。

賞金単価は現在1秒300円。そして制限時間は90分。逃げきれば162万円を獲得できる。

ピリリリリ!! ピリリリリ!!

「うお!! こんなに静かな場所で鳴ったらかなり目立つな。この音…。」

逃走者全員にメールだ…。そしてマリオは目立っては元も子もないと考え、ラインラインロード

へ身を移す…。

ミッション 〳ハンターボックスを封印せよ〳

ストンストン村とアンダーランド、モノノフ王国にハンターボックスが1つずつ置かれた。

このままでは残り時間80分にハンターが増えてしまう。

阻止するにはハンターボックスの横にあるボタンを押してロックをかければいい。

ただし、普通の方法ではボタンに触れることができない。



「ここはペーパー世界なのでエリアのどこかにいる『ア・ゲール』という人物に次元ワザを

教えてもらおうとボタンを押せるようになる。」

「次元ワザか…。やっぱりそこも取り入れてたみたいだな…。」

マリオは当然ながら次元ワザを知っているが…、

「次元ワザ？ 何だそれ。」

「次元ワザってどこかで聞いたことがあるような無いような…。」

「ええい!! とにかくア・ゲールとかいう奴を叩き出して(探し出して)やるゾイ!!」

ヨッシーやソニック、デデデ等は次元ワザを知らない。

ちなみに次元ワザについてはハザマタウンで皆もらった広告を見れば分かるはずだ。

一方、とある場所では…、

「フフフフ…。いいことを思いついたぞ。逃走中のミッションを利用させてもらっぜ…。」

不気味に笑う謎の男…。

この男が後に世間で大騒ぎになるということをこの時、逃走者達はまだ知らなかった…。

「ワリオさん、ミッションはどっしりますっ。」

「面倒だから行かねーよ。」

ややこしいせいか、ワリオは全く行く気にもならない。

少しは参加すればいいのにと心の中で呟くスタッフだった…。

「暇だから手がかりが来るまでこれでも読むか…。」

手がかりが来るまでは動かないクツパ。

彼はハンターに警戒しつつ、貰った広告を読み始めた。

「ハア…。ハア…。まだ疲れが取れないですね…。とりあえずこの家でちよつと休ませてもらいましょう。」

一方、ヨッシーはラインラインロードのとある家でちよつと休憩を取っているところだ。

しばらくすると、そこに…、

「ん？ ワシの家に入ってきてるのは誰ゲル？」

「あっ、勝手に入り込んですいません!!」

「ひよつとして次元ワザを教えてほしいゲルか？」

「次元ワザって…、貴方がア・ゲールさんですか!？」

「その通り！ ワシはア・ゲール。次元ワザを特別料金12コインで教えるぞい。」

「はい!! お願いします!!」

偶然、ア・ゲールに出会ったヨッシー…。

12コイン払い、見事に次元ワザを習得したのだった。

「本当の所この技は勇者にしか教えられないがマスターハンドに頼まれてのう…。とにかく

その技を試してみるといいゲル!」

「えーと…、それ!!」

するとヨッシーの視界では途端に3Dの世界に早変わり!!  
するとさっきまで無かったドリンクもあった。

「不思議じゃろ? 3Dの世界に入り込んでみるとさっきまで見えなかったアイテムが出現した

じゃろ? そのドリンクはおまけじゃ。持っていくといいゲル。」

「ありがとうございます!!」

こうしてヨッシーはア・ゲールの家を後にし、ハンターボックスの置かれているエリアに向かうのだった…。

一方、カクカク平原に逃げ込んでいるカービィだが…、

「次元ワザって何? どこで教えてくれるんだろう…。」

ピリリリリ!! ピリリリリ!!

ヨッシーからのメールだ…。

「うわっ!…びっくりした〜」。

ヨッシーからのメール

ア・ゲールさんはラインラインロードに入った直後に見える家に住んでいます。

ミッシヨンに参加する人は是非そこへ!!

「なるほど…。ラインラインロードにあるのか…。だったら今すぐに行こう!!」

だが、その近くに…、ハンター。

「急がないと…!!」

頭がミッシェンのことで一杯なのかカービィはハンターが近づいていることを知らない…。

「…!!」

…見つかった。

「うわっ!! ハンター!!」

カービィもようやく気付いたが時既に遅し…。

ポン!! 残り87分12秒 カービィ確保 残り逃走者14人

「そんな…。一番最初に捕まるなんて…。」

移動は常に、リスクが伴う…。

ピリリリリ!! ピリリリリ!!

「ん? メールか…。『確保情報 残り87分12秒 カクカク平原にてカービィ確保。残り逃走者

は14人。』え!? もうカービィ捕まったのか!？」

ラインラインロードに身を移したマリオ…。

開始早々3分近くで確保者が出たせいか、マリオもちょっとヒヤヒヤしている…。

「とにかく急ぎよう。あと7分でハンターが…。」

「マリオもア・ゲールの家へ急ぐ…。」

「不気味だなあ…。」

sayaが逃げ込んだエリアはアンダーランド。

悪人と裁かれた死者がやってくる場所だ…。

「あれって…、ハンターボックス？ でも今の私じゃ、ロックできないんだよね…。」

sayaはハンターボックスを見つけたが、次元ワザを習得していない為、当然ながらボタンに触れることができない。

「急いでインラインロードに行かないと!!」

sayaはモルドカンを使ってハザマタワーに戻り、大急ぎでインラインロードへ向かう…。

「遊技場って一体何なのだ？ 多分面白そうな所だな。」

クッパは広告を見ながらア・ゲールの家へ向かっている所…。  
遊技場という言葉聞き、興味を持ったようだ。

「あれか…。ア・ゲールの家は。」

「ここか…。さあ、カービィの分まで頑張らないと!!」

クッパと同時にマリオもア・ゲールの家へ到着。

自分が活躍すると言わんばかりに早歩きでマリオより先に家の中

に入る…。

「ん？ 次元ワザを教えてもらいたいゲルか？」

「ガハハハハ!! その通りだ。時間が無い。さっさと教える。」

「口の聞き方が気に食わないが…、いいゲル！ では特別料金12コイン貰うゲル。あと、

勇者様（マリオ）も再び教えてほしいなら12コイン貰うゲル。」

「こうしてマリオとクッパも次元ワザを習得し、ハンターボックスをロックしに行く…。」

「気を付けていくゲルー!!」

「あの…。私にも次元ワザ教えてください。…12コインはきちんと払うので!!」

マリオとクッパが出ていくと同時にsayaもア・ゲールの家に到着。

「入ってくるタイミングがある意味良すぎるゲル…。とにかく12コイン貰うゲル。」

「ありがとうございます!!」

続いてsayaも次元ワザを習得。こうして彼女もアンダーランドへ向かう…。

「…」  
「ねじゅ、動く」とすらできないゾイ…。」

小声で呟くデデデは現在、モノノフ王国にいる。

しかし、ハンターがすぐ近くに居る為、動くことができない…。

「…。」

ハンターもエリアを隈なく搜索している…。

「…。」

しかし、ハンターは通り過ぎた…。デデデも一安心したところで。

「今ゾイ!!」

デデデもハザマドカンを使用。

ハザマタワーに戻され、すぐさまラインラインランドへ向かう…。

「あっ!! ヨッシーの言っていた家はあれかゾイ?」

デデデはラインラインロードに入り、家を見つける。

すると…、

「陛下、ここにおられましたか。」

「メタナイト! お前もここに来ていたのかゾイ!!」

「時間があと5分程度しか残っていません。早く次元ワザの習得をした方がよろしいかと。」

「い、言われんでも分かっておる!!」

入った直後、メタナイトと合流したデデデ。

大急ぎでア・ゲールの家へ向かう…。

「ワシは今日で何回次元ワザを教えたゲル? お客が多すぎるゲル…。」

マスターハンドの依頼で次元ワザを何人も教えているア・ゲールだ

が、本人はこれが逃走中の  
ミッションであることを知らない…。

「ア・ゲールというのはお前かゾイ!? 今すぐ次元…何とかを教える  
ゾイ!!」

「またかゲル…。きちんと12コイン払ってもらうゲル。ほれー!!」

デデデとメタナイトも次元ワザを習得。

「一体何人に次元ワザを教えたゲル? え〜と…、1、2、3、4…」

次元ワザを習得したマリオ、ヨッシー、クッパ、デデデ、say a、  
メタナイト。

残り5分辺りでハンターが放出されてしまっが、果たして間に合う  
のか!?



### 第3話 ミッション 2 迫りくる時間

「OH…。やっと着いたぜ。でも寄り道にいろんなエリアを周ったのはちょっとマズかったか…。」

ミッション終了まであと3分…。そこにソニックがア・ゲールの家  
に到着。

これは約5分前にさかのぼる…。

ピリリリリ!! ピリリリリ!!

「うおっ!! びっくりした…。電話か。」

電話が鳴ったのですぐに電話に出たソニック。誰からかと言うと  
…、

「ソニック、僕達もミッションに行かない?」

「ああ、別にいいぜ。俺は。」

「じゃ、急いで次元ワザ覚えてミッションに行こう!!」

そして現在に至る…。

「しかし、待ち合わせ場所とか聞いてなかったな…。あとで電話かけるか…。」

「しまったー!! 一緒にミッションやる時、待ち合わせ場所とか考えてなかったー!!」

待ち合わせ場所を聞いていなかった2人…。

「(ルイージが)来るまでミッションやっておくか…。」

するとソニックはア・ゲールに次元ワザを教えてもらい、ミッションへ向かう。

「どっだ? どっだ? ハンターボックスは…。」

モノノフ王国にやってきたマリオ。

ミッション終了まで残り3分も無いせいか、かなり慌てている様子…。

「あー!! あんな所にあっただのか…。」

ハンターボックスを見つけたマリオ。

しかし、その近くに…ハンター。

「よし、急ぎよう!!」

ハンターに気づかず、ハンターボックスへ走って行ったマリオ。

この後、前代未聞の悲劇になることを知らずに…。

「アンダーランドって完全に地獄ですよ、これ…。」

一方、マリオの相棒ヨッシーはアンダーランドへ。

彼もまたハンターボックスを封印する為に走っている…。

「あつ、ヨッシーさん。ひょっとしてハンターボックス探してますか」

「?」

「はい。」

「じゃ、ここは任せてください。ここ場所知っているのでヨッシーさんは別のエリア」

「に向かってください。」  
「分かりました。」

sayyaとヨッシーが合流。

と同時にヨッシーはモルドドカンを使用して別のエリアに向かった…。

「私も急がないと…。」

マリオはハンターボックスを封印する為、走っている最中…、

「…!!」

見つけた…。

「うおっ!! ハンター!! とにかく逃げろー!!」

ようやくマリオもハンターに気づき、逃げ出すが…、

「…!!」

何と、最悪なことに転んでしまった…。」

ポン!! 残り82分8秒 マリオ確保 残り逃走者13人

「うわー…。ミッションをクリアできないまま終わるなんて…。」

スーパースターのマリオもハンターのスピードには敵わなかった

…。

ピリリリリ!! ピリリリリ!!

「うわっ!! メールか…。びっくりしたよ。え〜と…『確保情報 残り82分 モノノフ王国  
にてマリオ確保。残り逃走者は13人。』…え!? 兄さん捕まったの!?’

「まさかマリオが消えるとは…。もうちよっとなと勝負したかったのだ…。まあ、マリオより

生き残ったからいいのだ! ガハハハハ!!」

ミッション終了まであと2分。

ハンターボックスは未だ封印されておらず、このままでは8体のハンターが逃走者に襲い掛かる…!

## 第4話 ミッション 3 終了まであと2分

「とにかく急ごう！ 今は次元ワザを習得するのが先だ!!」

マリオ確保という事実を突き付けられたルイージだが、今は彼に對する情けは無用だ…。

「早くミッション行かないとな…。でもハンターがうろろろしてるから動けない…。」

(早く消え失せてくれないかな…。)

ミッション終了まであと2分…。動けない瑞田高光が様子伺っている…。

「…。」

するとハンターが去って行った。

「よし、今のうちに行くか…。」

今だと考えた高光はこの場を去り、ア・ゲールの家へ向かう…。

「すいません。次元ワザ教えてください。」

「またゲルか…。一体今日で何回目ゲル?」

「そんなことどうでもいいから早く!!」

面倒臭そうに言うア・ゲールだが、高光は早く早くと急いでいる。

「もう、分かったゲル…。」

12コイン払い、次元ワザを習得した高光は急いでミッションに向かう…。

「あっ、あった!!」

一方、再びアンダーランドへ向かったsaya…。  
そして…、

「えいつ!!」

次元ワザで3Dの世界へ入り込み、ボタンを押したsaya。  
これで残るハンターボックスは2つ。だが、そこに…、ハンター。

「きゃっ!! ハンター!!」

ペラペラではあるが、運悪くハンターと顔合わせしてしまったsaya…。  
だが…、

「あれ? タッチしてこない…?」

タッチしないことに違和感を持つsaya…。

ピリリリリ!! ピリリリリ!!

するとメールが来た。

通達

次元ワザを使うと2D世界のハンターには捕まらないが、同じように3Dの世界にも同じ数の

ハンターが反映されるので油断は禁物だ。  
ちなみに2D世界にいる時は3D世界のハンターには捕まらない。

「良かった…。2Dの世界のハンターだったんだ…。」

運良く、捕まらなかったsayya…。

しかし、ゲームはまだ始まったばかり。簡単には逃げきれない…。

「どこだ？ どこだ？ ハンターボックスは…。」

ヨッシーはモノノフ王国のハンターボックスを封印する為、モノノフ王国を周っている…。

「ヨッシーだゾイ!!」

「ヨッシー殿!!」

そこにデデデとメタナイト。

2人と合流し、3人でハンターボックスを探すことに…。するとすぐそこに…、

「あれは、ハンターボックス!!」

「すぐ左にあったゾイ!!」

ハンターボックスを見つけたメタナイト。

すぐさまヨッシーが次元ワザを使いボタンに触れる…。

「これで良しっつと…。」

「あっ!! おいしい所持って行かれたゾイ!!」

これで残るハンターボックスはあと1つ…。

残りはストーン村にあるハンターボックス。それを封印すれ

ばミッションクリアとなる。

「それにしても暑いのだ……。早く涼しい所へ行きたいのだ。」

そのストーンストン村に身を移していたクツパ。

だが、かなり暑く堪ったものではないようだ……。

「ついでにハンターボックスも見つかるといいのだ……。」

だがこうしている内にミッション終了まであと15秒を向かえていた……。

「ハンターボックス、あと1つはどこでしょうか……。」

「全くゾイ……。」

ヨッシーはsayaがアンダーランドのハンターボックスを封印しに行ったことを知っている為、

残りハンターボックスはあと1つと断定している……。

ミッション終了まであと……10!!

9!!

8!!

7!!



6 !!

5 !!

4 !!

3 !!

2 !!

1 !!!

「これだな？ ハンターボックスは…。」

終了直前、ハンターボックスの前に現れたソニックは真っ先に次元ワザを使用し、ボタンに触れた…。

0 !!! ミッション成功

ジュジュジュジュ！！ジュジュジュジュ！！

「何だ？ ミッションはどっつなつたんだ？」

ストンストン村に身を潜めていたスネーク。

ミッションの結果

ヨッシー、デデデ、メタナイト、ソニック、sayaの活躍により、  
ミッションは成功。

ハンターの数はそのまま4体となった。

「やったー!! 成功しました!!」

「成功したゾーイ!!」

「ふう…。何とかギリギリ間に合ったみたいだな。」

ミッション成功を喜ぶ逃走者達…。だが、その裏では…、

「フッフッフ…。ようやく俺達『オルタナティブ』の時代が来たようだな…。」

「ああ…。これで世界は俺たちの物だ。」

「そうだ…。手始めにスーパーペーパーマリオの世界を手中に収めるといつのはどうだ?」

「いいね…。それ。」

『オルタナティブ』と名乗る謎の3人組は手始めにスーパーペーパーマリオの世界を征服しよう

としている…。果たして彼らは一体何者なのか!?

## 第5話 ミッション 1 倒れた女性

ピリリリリ!! ピリリリリ!!

「今度は何なんだ？ 全く…。」

カクカク平原エリアにいる総銀。一体メールは何回響くのだろうか…。

ミッション ｝賞金単価を選択せよ

カクカク平原エリアとストンストン村エリアに賞金単価選択装置が設置された。

1秒500円になるがハンター2体追加

1秒100円になるがハンター1体消去

2つの選択肢の中から1つを選び、残り時間72分の時点で投票数の多い方に賞金

とハンターの数が変化する。

尚、次元ワザを習得していることが条件であり、残り72分の時点で投票しなかつ

た者は強制失格となる。

「ワッハッハ!! こりゃチャンスだ! 賞金増やして逃げ切つてやる!!」

ラインラインロードにいるワリオ。彼が何に投票するのは…明らかだ。

決して本人の前で『ケチ』と言ってはいけなさと感じるのは俺だけだろうか…。

「嫌でもミッションに参加させる気が…。まずはラインラインロードに行か

ないとな…。」

未だ身を低めているスネーク…。

ミッションに参加するには次元ワザを習得するのが条件である。

だが運の悪いことに…、ハンター…。

「…。」

彼らは逃走者を見つけ次第、確保へ向かう。

振り切るのは…、容易ではない。

「くそ…。こんな時にハンターか…。こっとなったらあそこに…。」

一か八か草むらに身を潜めたスネーク…。

果たしてこのままやり過ごせるか!?

「…。」

何とかやり過ごせたようだ…。

そしてスネークはラインラインロードへ向かう。

「ミッションですか…。早くやらないと強制失格になるみたいですね。」

「全くゾイ…。」

「即ち、嫌でもミッションに参加させる気ってことか…。」

一方、賞金単価選択装置を探しているヨッシーとデデデ、メタナイ

ト。

彼らは一度モドルドカンを使い、ストーンストン村にいる。

3人とも次元ワザは習得している為、発見次第、投票することができる。

「前のミッションが面倒臭かった分、今回は楽勝だゾイ!!」

「しかしながら陛下、ハンターは5体。過信は禁物です。」

「い、言ってみただけだゾイ!」

「はあ…。何か僕、忘れられてるような気がするな…。」

ようやく次元ワザを習得できたルイージ。

「これはミッション 終了まであと2分の頃を遡る。

「すいませーん。次元ワザ教えてくださいー!!」

「また客ゲル? 一体何人来るゲルか…。」

「急いでいるんでお願いします。」

「次元ワザ教えるのも楽じゃないゲルよ…。一体今日で何人教えたことか…。」

ルイージは頼み続けるが、ア・ゲルは疲れているせいか、まともには聞き入れてくれない。

「もう!! 次元ワザを教えてください。装置を置くからその装置から教えてもら

うゲル!!」

「ありがとうございます!!」

「…という訳だったんだよな。そんじゃ、急いじつ。」

ルイージはモルドカンでハザマタワーへ戻り、すぐさまストーン村へ向かう…。

「いいぞ、いいぞ…。そのまま投票してしまえ。そうすれば…。」

一方、モニターで逃走者を監視しているオルタナティブの三人。一体、賞金単価装置に何を仕組んだのだろうか…。

「そろそろ例の仕掛けを作動させてもいいだろ？ ゴンズ。」

「ああ、頼んだぜ…。レチュア。」

賞金単価装置も不気味だが更なる仕掛けが作動しようとしている…。

「ハア…。ハア…。ここまで来れば大丈夫…。」

ハザマタウンの外れにいるこの女性。

かなり体力を消耗しており、いつ倒れてもおかしくない状態に至っている…。

そしてしばらく経ち、彼女は倒れた。

「あつ、あれか!? 賞金単…何とかは。」

ルイージは少し歩いて賞金単価装置を見つけた。

だが…、

「だけど…、見つけたのが早すぎるせいでどっちに投票するか決めてなかつ

たな…。」

ルイージはしばらく考え込んだ…。

逃げ辛くしてまで賞金を増やすべきか…。

賞金を減らしてまで逃げやすくするべきか…。

中々決心がつかないルイージ…。だが遂に、

「よし、いっただ!!」

勇気を持ってボタンを押した!!

ちなみに誰がどのボタンを押したのかはミッション終了までは明かされない。

「何かホッとした気分だ…。」

するとそこに…、

「よ、よし、見つけたのだ…。」

「ク、クッパ!!」

クッパも賞金単価装置に到着。

「な、何だよ？ 文句でもあるのか!? ガハハハ!!」

「クッパもこの装置を探してたの…?」

「正にその通りだ。ワガハイはどっちに投票するかはもう決めてある。」

クッパも投票し、これで2人がミッションをクリア。

だが、その背後にハンター…。

「あつ、ハンターだ。隠れないと…。」

「何ー!? ハンターだと!？」

ルイージが小声でクッパに囁くも、それをクッパ自身が大声で叫んだせいで

ハンターに見つかってしまった2人…。

「大声で叫んじゃダメだつて!!」

「や、やかましいわ!!」

2人で口喧嘩をしているうちにハンターはもの凄い速さで彼らを追い詰めて

いく…。

「い、一か八かだ!!」

捕まると感じたルイージは左へ急カーブ。

予想通りルイージは逃げ切り、クッパだけが追われるという事態に…。

「ミドリのはげめ…。自分だけ逃げおつて…。」

ポン!! 残り7分59秒 クッパ確保 残り逃走者

愚痴を履いた直後、クッパは確保されてしまった…。

この先、一体どんなドラマが待ち受けているのか!?